もも・ネクタリン情報　No.5

令和5年　5月12日発行

JAグリーン長野営農販売部・経済部
JAグリーン長野もも部会

長野県No.１のもも・ネクタリン産地を守ろう！

◆生育状況と当面する作業について

4月25日の低温により、地域、園地によるバラツキはあるものの、川中島白鳳、黄金桃、ネクタリンを中心に着果不足の枝が見られる。不足する枝は、着果位置にこだわらず残し、着果量の確保を図る。一部凍害で胴枯れ・弱樹勢となっている樹がある。

せん孔細菌病は昨年と比べ発生は少ない傾向となっているが、枝病斑の除去は徹底する。

1. タンポポ等はミカンキイロアザミウマの発生源になるので除草を徹底する。
2. 以前配布（12月）されている「葉面散布肥料・特殊資材の使い方」を参考に葉面散布肥料を有効に活用する。
   着果量が多く、摘果に時間がかかる場合は、樹が衰弱しやすいので特に活用を考慮する。

【もも薬剤防除】

◆第６回薬剤散布について

1. 散布時期･･･5月20日（土）～5月26日(金)　　《実際散布日記入　　月　　日》
2. 調 合 量 ･･･水100ℓ 当り　※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
固着性展着剤アビオンＥ	１００㎖	―	―
トレノックスフロアブル	２００㎖	黒星病	7 日前まで
マ イ コ シ ー ル ド	６６ｇ	せん孔細菌病	21 日前まで
㊞オリオン水 和 剤	１００ｇ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類・ﾓﾓﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ・ｶｲｶﾞﾗﾑｼ類・ｹﾑｼ類	14 日前まで

【ネクタリン薬剤防除】　※もも・ネクタリン混植園

◆第６回薬剤散布について

1. 散布時期･･･5月20日（土）～5月26日(金)　　《実際散布日記入　　月　　日》
2. 調 合 量 ･･･水100ℓ 当り　※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
固着性展着剤アビオンＥ	１００㎖	―	―
トレノックスフロアブル	２００㎖	黒星病	30 日前まで
マ イ コ シ ー ル ド	６６ｇ	せん孔細菌病	28 日前まで
㊞オリオン水 和 剤	１００ｇ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類・ﾓﾓﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ・ｶｲｶﾞﾗﾑｼ類・ｹﾑｼ類	21 日前まで

3. 散布上の留意事項

①**極早生品種**（アームキング等）は収穫開始日にかかる可能性があるため、マイコシールド、トレノックスフロアブルを散布する場合は、散布を**５月２２日（月）まで終了させる。**

【もも・ネクタリン薬剤防除共通】

1. 散 布 量･･･10a当り⇒500ℓ以上
2. 散布上の留意事項

①うどんこ病の発生が心配される園は、コロナフロアブル 400 倍(水 100ℓ当り 250mℓ)又はイオウフロアブル 500 倍(水 100ℓ当り 200mℓ)を加用散布する。

②固着性展着剤アビオンEに代えて、K. Kステッカー3,000倍(水100ℓ当り33㎖)を使用してもよい。ただし、最後に混用する。また、せん孔細菌病の少ない場合は、通常の展着剤(水 100ℓ当り 10 ㎖)を使用してもよい。

③マイコシールドに代えてクプロシールド 1,000 倍(水 100ℓ 当りに 100 ㎖)＋クレフノン 100 倍(水 100ℓ 当りに1000g)でもよい。クプロシールドには薬害防止のためクレフノンを必ず加用する。展着剤はササラ3,000倍(水 100ℓ 当りに 33mℓ)がよい。白く汚れやすいので周囲への飛散に注意する。

◆かん水の実施について

この時期は、平年並みの降水量でも、不足する時期となるため、積極的にかん水を実施する。干天が続いたら10日程度に20㎜程度、又は7日程度に15㎜程度のかん水を行なう。

※10aに１㎜のかん水をするには、水1,000ℓ が必要です。樹冠下に集中して行う。

※目安として、かん水ポンプ口径インチ半を利用し、10a当り2時間程度。

◆仕上摘果について

摘果は早く行なうほど果実肥大の効果は高いが、時として生理落果や核割れ果を生じるので摘蕾・摘花を含めた予備摘果と本摘果、さらに生理落果が終わり袋掛け時に見直し摘果をする3段構えの着果管理が品質の良いものを揃えるために大切。

1. 本摘果

①時期･･･果形の良否がはっきり判別できる満開40～50日頃（**5/１９～5/２９頃**）に行う。

※満開後50日以降から硬核期となるため、核割れの多い品種ほど、摘果は避けたい。

②程度(結果枝別の摘果基準)

・長果枝で2個
・中果枝で1個
・短果枝5本で1個

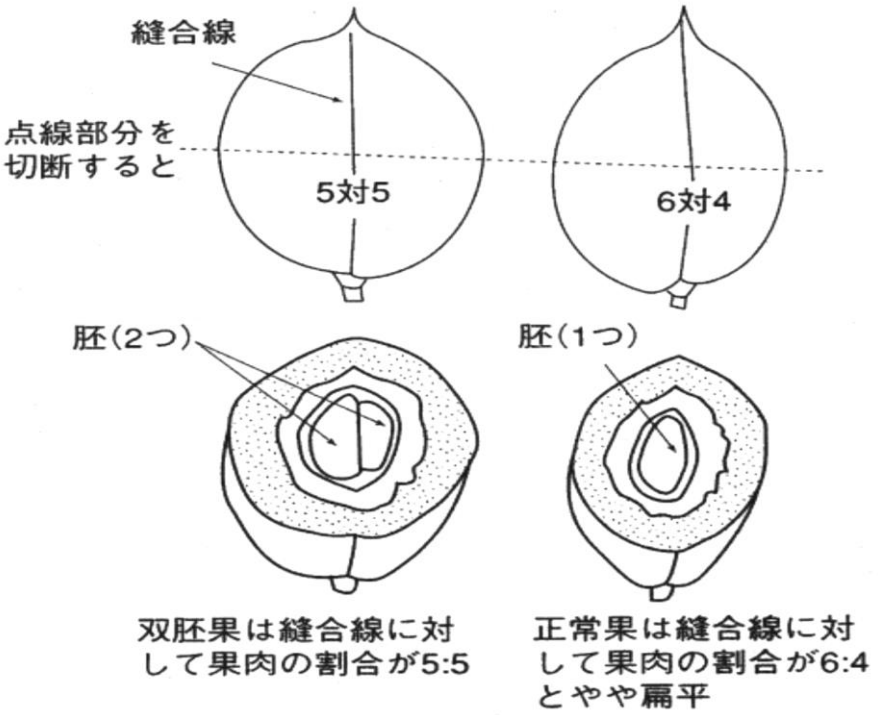
大きい果実を残し、ガク片が残った発育不良果・変形果・病害虫被害果及び着果位置の悪いものを落とす。

③残す果実

・長手(ラグビーボール型)で大きく、正常な色沢の物を残す。
・左右均等に肥大した丸い果実は、双胚果であるので落とす。

2. 灰色かび病対策

果柄部に、がく片や幼果が入り込むと、灰色かび病の基となる。結実よく、摘果が遅れると特に目立つため除去を徹底する。



◆ももうどんこ病並びにりんごうどんこ病（毛じ障害）について

	もも　うどんこ病	りんご　うどんこ病(毛じ障害)
発生時期	落花30日頃から (本年は5月中旬頃)	落花15日頃から(満開後20日後～25日頃) (本年は4月末頃)
初期症状	白粉をまぶしたような円形の病斑 毛じ内に白粉が観察される 果皮に異常は見られない	淡褐色～褐色の小斑点 毛じは健全 果皮が淡褐色～褐色に変化
後期症状	菌そうは消え、毛じや果皮が褐変 着色期に目立たなくなる 一部でやや凹んだサビ状になる	被害部はサビ状となる 軽微なものは着色に より目立たなくなる

★発生した場合の対策

①果皮が既に大きく変色したものや、サビ状になっているものは摘果する。

②被害果が多い場合は、中でも程度の軽い果実や果柄部側(ホゾ側)のものを優先に残し、空枝にはせず、適正着果量を確保する。

◆新梢管理について

1. 芽かき

①徒長枝は無駄なエネルギーを使い、樹形も乱し良品生産のさまたげとなる。

②主枝・亜主枝の背面や大枝の切り口、さらに長・中果枝の基部10㎝の直上芽は強勢な徒長枝となりやすいので、摘果に合わせてかき取り処分する。

2. 摘心

①枝の背面から出る芽(新梢)は全部をかき取るのでなく、必要に応じ捻枝や摘心処理して日焼け防止と結果枝確保に利用することが大切である。

②摘心は5月下旬と6月下旬の時期に5～7葉で切っておくとよい。

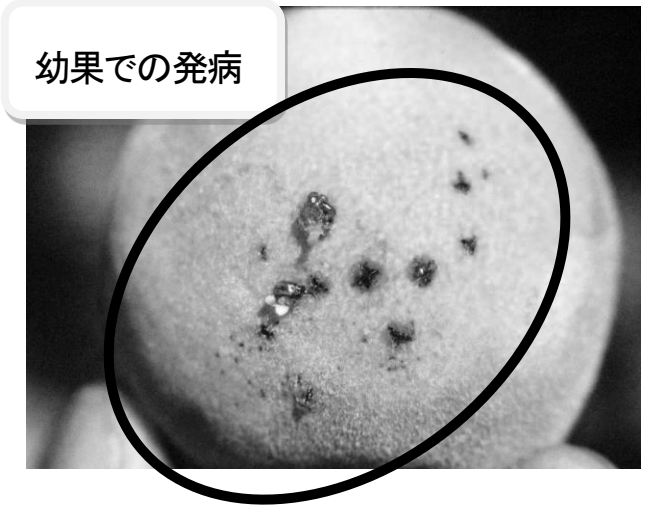
◆せん孔細菌病と灰星病の対策を実施しよう！！

1. 6月からの感染症状と特徴

①6～8月は、本年伸びた新梢に発生をする夏型枝病斑の発生がある。
はじめ紫赤色の病斑だが，広がるにつれて紫黒色になってへこみ，枝に沿って縦長の病斑を形成する。
当年の伝染源にはなるため、これも剪除する。

②葉での発病は、はじめに葉脈で区切られた不整形の斑点ができ、淡褐色～紫褐色の斑点となり、やがて病斑部分が乾いて抜け落ち、不整形の穴になる。
梅雨期には、葉の発病が増加する。
かなり目立つようであれば、二次伝染が盛んになる。
降雨が続いて、園地内に雨水が長時間残ると、葉の気孔が開くため、感染が起こり多発生になる。

③果実での発病は、幼果ほど感染しやすく、ピンポン玉より大きくなると感染しにくくなる。
幼果の感染後、発病まで2～3週間、ピンポン玉大で40日以上と長くなる。このため、大きくなってから感染する



と、有袋栽培では、除袋後でないと発病に気づかない。又は、収穫時に発病しておらず、当年の果実品質に影響が無い場合もある。

なお、収穫時期が遅い品種ほど、多くなる傾向にある。

2. 今後の対策

①春型枝病斑の剪除に続いて夏型枝病斑の剪除をする。
切除の際は切り口の形成層を確認し、茶色い筋が見える場合は、更に多めに切除し、再発を防ぐ。
枝病斑にヤニが出ている場合、触らないようにする。触った手は感染防止のため果実に触れないようにする。

②袋掛けも果実感染を防ぐ重要な方法。
発生が多い園は、早めに袋掛けを実施する。

③薬剤防除は、効果は完全ではないが重要。
当年の果実感染を考えると、袋掛けまでが防除時期。なお、散布量を多くしてしっかり撒く事(特に発生の多い園外周)

④排水性の悪い園は、対策を行う。

《栽培に関する問合》
寺澤（篠ノ井西部・信田）：080-1188-5229／外谷（篠ノ井東部）：080-8048-6602
松橋（松代）：090-4816-6297／佐藤（川中島）：090-7179-9866
根津（更北）080-1203-8576／元田（若穂）282-2002
吉澤（全域・編集担当）：090-2543-0365／営農販売部（本所）：292-0930
○果樹のアドバイザー（流通センター長兼務）
松澤（若穂）080-1191-5166／伊藤（篠ノ井東部）080-2239-6816
松坂（篠ノ井西部）080-1188-4131
《販売に関する問合》各流通センター・共選所／営農販売部（本所）：292-0930
《資材に関する問合》各ＪＡファーム・営農資材センター・経済部／農業資材課：299-3311